

# いおく ニュース

IOKU NEWS

Vol. 93

2018年 9月号 | September, 2018



## 提言

### ホームホスピス 共に暮らす家で人生の最後を

「多死社会」そういわれて久しい現在、8割の方が病院で亡くなっています。では、どこで人生の最後を迎えたいかとの問いには、多くの方が「自宅」と答えます。これ以上、治癒困難と分かったとき、6割の方は「自宅で療養したい」と希望しながらも、「一方で、「最後までは困難」とも考えています。思えばあれど、「帰りたい」といったその瞬間に、家族の困った顔が浮かんだ」とのお声も聞きます。

本当は病院ではなく、普通

の暮らしの中で死にゆくことを希望されている方がいる。家族が安心して大切な人を見るには、地域の中にそれを補完する仕組みが必要になると考えます。私は、それがホームホスピスであると考えます。



もっと詳しく中面へ

#### 猪奥美里(いおくみさと)プロフィール

1980年奈良市秋篠町生まれ  
平城小学校・平城中学校／ジーク高校(ドイツ)／奈良大学附属高等学校／立命館大学・立命館大学大学院(環境経済学専攻)／衆議院議員秘書  
2011年奈良県議会議員初当選 2015年4月2期目当選  
◆ 経済労働委員会委員 防災・県土強靱化対策特別委員会副委員長



## データでみる! 奈良県政

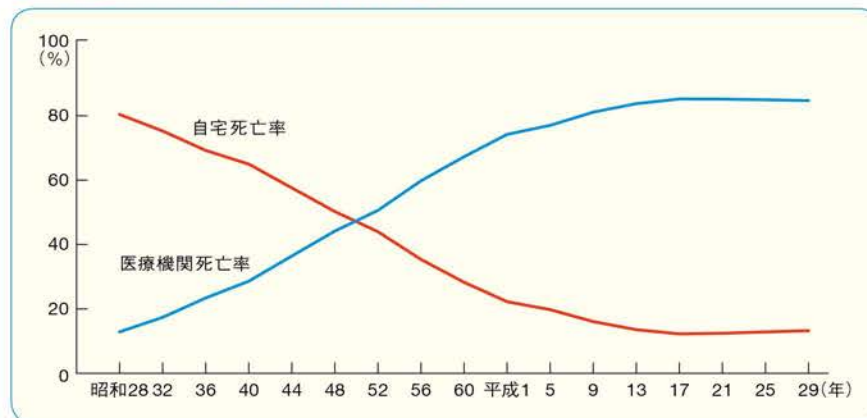


今月のテーマ

### 人生の最後を考える

どこで人生の最後を迎えるのか? かつての「家で家族に看取られてという姿」は、もはや珍しい光景となりました。

#### ● 死亡の場所別にみた年次別死亡率



私はこの数字を見て、ここ数年自宅死亡率がわずかに増加していることに注目しています。自宅での死が増えている。ご自身や家族の希望でそうになっているなら喜ばしいのですが、病院、施設での死亡も共に増加しています。もしかしたら、受け入れ先がなくて自宅ではなっていないか? そこに大きな苦勞がないか? だからこそ今回取り上げた、ホームホスピスのような住まいも必要になってくると考えます。



#### 連絡先

〒631-0817 奈良市西大寺北町1丁目1-16 岡本ビル103号  
TEL 0742-53-1093 FAX 0742-53-1094 MAIL info@ioku.jp

#### ポスティングのお願い

このいおくニュースは、いおくや事務所スタッフ、そしてボランティアの皆さんで手配りをしています。少しで結構ですので、お手伝いいただける方は、ご連絡ください。



## 今月のいおく



1日 (水)	訪問活動
2日 (木)	国民民主党 認知度アップキャンペーン、オリンピック・パラリンピックフラッグ歓迎イベント
3日 (金)	インターンオリエンテーション、連合奈良の日
4日 (土)	NTT労働組合関西支部第6回定期大会、まぶち会ビアガーデン、秋篠・歌姫夏祭り
5日 (日)	中谷一馬衆議院議員結婚披露宴
6日 (月)	国民民主党奈良県第一区総支部幹事会
7日 (火)	デイサービスくみき訪問、燈花会ボランティア
8日 (水)	議会運営委員会
9日 (木)	奈良県総合医療センター視察
10日 (金)	第100回全国高校野球選手権記念大会 一回戦 奈良大学附属高校 応援 vs 羽黒
11日 (土)	なら燈花会能
12日 (日)	休み
13日 (月)	野球部練習
14日 (火)	休み
15日 (水)	第100回全国高校野球選手権記念大会 2回戦 奈良大学附属高校 応援 vs 日大三①
16日 (木)	女性議員ネットワーク会議世話人会@東京
17日 (金)	防災・県土強靱化対策特別委員会
18日 (土)	インターン模擬選挙プレゼン発表会②、ぶどう農家収穫お手伝い
19日 (日)	訪問活動
20日 (月)	国民民主党役員会・常任幹事会・地方議員懇談会
21日 (火)	第7回奈良県議会高校生議会、奈良青年会議所 全国大会奈良大会五周年記念式典③
22日 (水)	総務警察委員会
23日 (木)	自治体政策青年ネットワーク研修会@東京
24日 (金)	自治体政策青年ネットワーク研修会@東京
25日 (土)	全国都道府県野球大会@水戸
26日 (日)	全国都道府県野球大会@水戸
27日 (月)	観光振興対策特別委員会 県内調査@興福寺、チームしが勉強会
28日 (火)	県庁打ち合わせ
29日 (水)	訪問活動
30日 (木)	第一回奈良県エネルギービジョン 推進協議会傍聴
31日 (金)	県内大学生が創る奈良の未来事業 公開コンペ



母校・奈良大学附属が悲願の夏の甲子園初出場。思い切りプレーする姿に感動!



いおく事務所恒例、模擬選挙。学生3名が奈良市議選に立候補したら?でプレゼン大会



若い視点が学びになります。二部の議員との意見交換会も盛り上がりました

ホームホスピスとは?

「ホスピス」と名前は付いていますが、対象者はがん患者だけではなく、人生の終末期で、医療機関の積極的な治療を望まない方がより家庭的な雰囲気の中で最後まで安心して暮らし、安らかに看取られることのできる場所として、ホームホスピスが運営されています。いわゆる「施設」ではなく、主に空き家を改修した民家がベースになります。誰かが住んであちこちに生活のにおいが残る家。そこで様々な条件の人が、5〜6人で人生の最後を「共に暮らす家」で過ごすのです。「家」で最後まで生きることを可能にするためには、介護スタッフや家族

が行う医療的ケアが生活のケアの一端として必要になります。2〜3人のスタッフが見守りをし、家族によるサポート、補完する支援がスタッフより提供されています。この生活基盤に、在宅医療や訪問介護サービスなどを外付けとしてそれぞれが受けているのです。

今後より高齢化が進み、特別養護老人ホームなどの施設はますます不足していきまことを望まない方も多くいらっしゃいます。しかし在宅はすべての方に叶うわけではない、だからこそ、家庭的雰囲気のなかで看取りを含めた質の高いケアがあるホームホスピスのようなところが各地に点在することが必要だと考えます。

## PICK UP

## ホームホスピス訪問記

外は普通の家「こんにちは」と玄関を開ける。お風呂などは改修してあるものの、どう見ても普通のおうち。家の真ん中にあるリビングでお話を伺っていると、キッチンから晩御飯の支度の美味しい匂いが漂ってくる。「たくさんおナス頂いたので今日は、メニュー変更!」。隣からは、ベットの脇で洗濯物を畳みながらのおしゃべりが聞こえてくる。そんなやり取りは、まるでおばあちゃんの家に来たみたいでした。

